



世界の大学シリーズ(12) タマサート大学 (タイ)

バンコク市から広い直線道路を北へ1時間半程タクシーで走ると、ランジットに在るタマサート大学のオレンジ色の屋根が左手に点在して見える。途中、空がみるみるうちに暗雲に覆われ、バケツの水をひっくり返したような豪雨となり、それも束の間、嘘みたいに抜けるような青空に変わった。このスクールを地元では、マンゴーシャワーと呼ぶそうだ。滞在中は、雨期を1ヶ月後に控えた連日の猛暑の中で、実験室、講義室を廻り、インタビュー等の写真を撮るときも終始タオルで額の汗を拭った。

10年前に2000ライ(320ha、東広島キャンパスの1.3倍)の広大な敷地に新たにキャンパスを開設し、理学部、医学部、工学部の施設を整備している。平坦な土地には、小川、池、湿地が点在している。チュラロンコン大学、カセサート大学と共にタイの名門大学の一つである。写真は、理工学部本部棟で、こげ茶と白の調和のとれた瀟洒な建物である。建物の屋根は各学部ともオレンジ色で統一され、後日アユタヤへ行く途中からでも、異彩を放っていた。

構内は、夏季休暇中で、予め大学側が連絡してくれていた学生6人の他には、実験中の学生が疎らに見られる程度で、閑散としていた。学生との対話内容は、大学に入るまでの教育歴、今の大学を選んだ理由、現在の大学の教官・設備の満足度、将来の希望、自国の将来、国際協力のあり方、日本の印象などである。この写真は、日下部教授(土質工学)とのインタビューに真剣に耳を傾け目を輝かせていた姿を撮ったものであり、今でも印象に残っている。

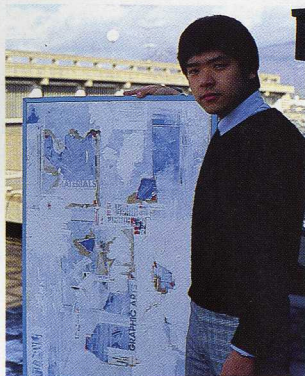
工学部厚生補導係 北升正文(きたます・まさふみ)



▲国際協力研究科のパンフレットを前に、真剣な表情の学生達



◀辛かったタイ料理を食べる筆者



「青」(B全:728×1030mm:アクリルガッシュ)

テーマは青
青のもつイメージや感覚ではなく
青そのものを表したかった。
制作過程で偶然出会った心に響く『青』
その青たちを気分の赴くままにつなぎ合わせた。

広島大学学校教育学部美術教育4年 平本将司